鳥取西道路の遺跡を掘る！

第 22 号　2011 年 2 月 22 日

古代や中世の遺跡からは、文字が墨で書かれた土器（墨書土器）が出土することがあります。

そうした文字は、みつかったところがどのような場所だったのかを考える手がかりをあたえてくれます。

土器に書かれた文字

倉吉市駄経寺町に、江戸時代から「大御堂」と呼ばれてきた、山陰地方最古の創建とされる古代寺院の跡があります。ここの発掘調査で「久米寺」と書かれた土器（写真上）がみつかったことから、この寺院跡が創建時には、伯耆国久米郡の寺、すなわち「久米寺」と呼ばれていたことがわかりました。

また、鳥取市にある岩吉遺跡では、当時の地名と思われる「草田」と書かれた土器が多くみつかっています。

今年度調査を行った高住平田遺跡でも、数点の墨書土器がみつかりました。その中で「縁」（写真下）という字は、仏教との関わりが強いとされます。仏教を深く信仰した人が書いたのでしょうか。

土器には、ほかにも、年号やまじないの言葉などさまざまな文字が書かれていることがあります。こうしたものを調べることで、当時の人々のようすをより詳しく知ることができるのです。

大御堂廃寺跡でみつかった土器に書かれた文字「久米寺」（『大御堂廃寺跡発掘調査報告書』から引用）

高住平田遺跡でみつかった土器に書かれた文字「深（？）縁」

墨書土器には、形の崩れた文字もありますが、高住でみつかった文字は達筆な筆づかいです。おそらく、当時読み書きができ、文字を使いなれていた役人や貴族、僧侶などが書いたのでしょう。

（財）鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所
〒680-1133
鳥取市源太 12 番地
（旧鳥取湖陵高校美和分校内）

TEL ：0857-51-7553
FAX：0857-51-7550
メールアドレス：
matsuik@pref.tottori.jp

発掘通信

2011 年に入って、もう２カ月が過ぎました。
「1 月は行く、2 月は逃げる、3 月は去る」とは、よく言ったものです。

今月で本高弓ノ木遺跡の発掘調査が終了しました。また、松原田中遺跡、高住平田遺跡から出土した遺物の整理作業も順次進めています。今後も整理の中でわかったことはホームページや通信でお知らせしていきます。

鳥取県教育文化財団　調査室　検索

埋もれた太古のくらし

もとだかゆみのき　いせき
本高弓ノ木遺跡

国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より

流路につくられた施設

たくさんの木材が貯められていた弥生時代前期（約2500年前）の流路の中から、石を積んだり、木を組み合わせてつくられた施設がみつかりました。

この部分には数本の木材が四角形に組み合わされています。水場での作業に使われたのかもしれません。

水の流れを調整する「せき」とみられる施設です。たくさんの石が積み上げられ、杭と横木が組み合わされていました。

本高弓ノ木遺跡周辺に暮らしていたのは、鳥取平野の中でも、いち早く米作りをはじめた人々でした。彼らは自然の流路の中に、水量を調整するための施設をつくり、農具や器を作るために必要な木材を貯えたり、様々な作業をしていたようです。

いにしえ湖南ものがたり

まつばらたなか　いせき
松原田中遺跡

国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より

たくさんの穴！（2区）

湿地にできた高いところから、たくさんの穴がみつかりました。周辺からは、弥生～古墳時代（約2500～1600年前）の土器が大量にみつかっており、約900年の間、人々が集中して住んでいたことがわかっています。幾度も重なった穴は、長期間に営まれた村の痕跡と考えられます。現在、これらの穴や土器から、どのような建物があったのか、人々がどのように生活していたのか検討しているところです。

出土した柱

穴だらけの調査地